

0501 校長通信③

先日ですが、話題になった「型破りな教室」という映画が近くで上映されていましたので、見てきました。メキシコのアメリカとの国境近くで、治安が大変に悪い小学校で実際にあった話を原作にした映画です。

新たに赴任した教師と児童とのかかわりをとおして、何が勉強をつまらなくさせているのか？教え方ひとつで子どもたちは学ぶ楽しみ、喜びに目覚め、自身の可能性を最大限に発揮する！というのが大きなテーマの映画でした。パンフレットの最初のページでは「未来を望むことさえしなかった子供たちが、可能性や夢に出会い、瞳がきらきら輝きだす光景に、心打たれる奇跡の感動作が誕生した。」とありました。2時間を越えた大作でしたが、あっという間に時間が過ぎた印象でした。

そして、パンフレットを読んでみてわかったのですが、メキシコのあるライターの取材がきっかけとなってこの映画の原作ができたようです。彼は、全国の数学テストで1位に輝いた小学生の出身校が、治安が大変に悪い学校の出身であったことを情報で知りました。普通はそこで、「あの地域で全国1位とはすごいな！」で終わるのですが、彼はそうではありませんでした。その後、彼自身が現地に赴き、約1か月間の小学校の取材を行ったそうです。そして新たに分かったことは、数学のテストが1位になっただけではなく、多くの児童の成績が驚くほど向上したそうです。その理由を追求した結果「A Radical Way of Unleashing a Generation of Geniuses (天才の世代を解き放つラディカルな方法)」として記事にまとめたようです。子どもたちのあくなき好奇心を学びに繋げ、子どもの中にある可能性を最大限に引き出した教師と児童の物語でした。

一般的に目にし、耳にする情報は誰にでも公平に行きわたります。ただ、そこからどのように興味関心を持ち、自分で調べ、主体的に行動するか？これからの時代はそこが大きなテーマになってくるのだと思います。私はこの記者が、実際にその学校に行き、どのようなことが起こったのか？肌身で調べてきたことに対して、感動を覚え、私自身もそうありたいと思いました。最近情報は巷にはあふれています。その中で自分に興味関心があるものをどのように見つけ、繋げ、自身の糧にしていけるか？そのあたりが人間としての成長に繋がっていくのではないかととも思います。

先日 NHK でやっていた最後の講義で元ソニー会長の平井一夫さんも「インターネットが発達し最近では、SNS 等で見たり聞いたりしたことを ○○らしい ということがよく言われるが、実際に見て、感じる事がとても大切である。」というようなことを話していました。百聞は一見に如かずですね！

「型破りな教室」という映画から、子どもたちの可能性を引き出す教育とそれを取り上げたライターの記者としての探求心を学んだような映画でした。そして、それを人ごとではなく、自分事とし、探求心をもって社会の様々な物事に教育者として責任と課題をもって取り組んでいきたいとは思いますが、なかなか難しいものです。教材は見方によってはあっちこちに転がっているのかもしれませんが。